

斑鳩の里 法隆寺map



聖徳太子が開掘したとされている井戸。法輪寺旧境内の範囲に含まれていた。

散策メモ
斑鳩の里(いかるがのさと)とは、斑鳩寺(法隆寺)を中心とした聖徳太子ゆかりの広範囲な集落をさす。601年、太子は斑鳩宮(いかるがのみや)を造営し、飛鳥から移り住んだ。また父の菩提を弔うため斑鳩宮に隣接する形で法隆寺を建立。さらに中宮寺、法起寺など多くの寺院を建立し、里を大きくしていった。法隆寺の五重塔、法輪寺の三重塔、法起寺の三重塔は合わせて「斑鳩三塔」と呼ばれ、街のシンボルとして広く愛されている。

607年に聖徳太子によって建立された、日本で現存する最古の木造建築物。金堂・五重塔・回廊など、伽藍がしっかりと残っており、見応えがある。

7世紀に聖徳太子により創建された寺院。日本で現存する最古の三重塔を持つ。周辺は畑が多く、四季折々絵になる写真が撮れる。

中宮寺は元はこの場所にあった。現在は礎石が復元され、公園として公開されている。

聖徳太子が母のために建立した寺院。本尊である国宝菩薩半伽藍の美しいほほえみは必見。

柿や、干し柿を販売している。

散策メモ
正岡子規は法隆寺に立ち寄った後、茶店で柿を食べたという。法隆寺境内にある子規の句碑は、その茶店の跡地に立てられている。

散策メモ
法隆寺駅から法隆寺参道までは、徒歩約20分かかる。境内でも出ほど歩くので、脚力に不安な方は駅南口から出ているバスを利用しよう。